

## 平成 29 年度 事業報告 企画調整室報告

### 地域に開かれた学園として（幼稚園 専門学校 大学）

本学園では、地域に開かれた学園として地域貢献、地域連携活動を積極的に進めております。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の医療や福祉、特に「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められています。企画調整室ではそのようなニーズに対応するため、本学園の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講しております。

大学では3年前から、前橋商工会議所・藤岡市が主催する「まちなかキャンパス」に参加し、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が交流し、語り、楽しめる学びの場を提供しております。この「まちなかキャンパス」を通じて、地域の皆様をつなぐ架け橋として、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

その他、近隣の公民館においては子育て支援講座、高齢者教室を定期的を実施したり、教員が施設や学校に出向き講座を実施したりする出前講座も積極的に実施しています。

さらに、今日の少子高齢社会において生ずる種々の問題に対して研究・調査及び情報提供を中心に地域の方々の相談事業にも対応しています。

群馬社会福祉専門学校では社会人の学び直しニーズに対応するため、社会福祉士通信課程の設置や、介護福祉士筆記試験対策講座等を開講しています。E-Learning を使用し、受講生の学習進度に応じて、主体的に学ぶことに大変好評を得ております。

附属幼稚園では、鈴蘭幼児教育センターを設置し、子育て支援や育児相談等に応じています。地域貢献活動として元総社地区文化祭や前橋まつりに参加し、秋には幼稚園バザーを行い地域の方々との交流を深めております。

このような活動を通して、開かれた学園として地域の方々が気軽に往き来できる学園づくりを進めております。

以下は 29 年度の実績報告となります。

### 1 まちなかキャンパス 前橋商工会議所連携事業

群馬医療福祉大学は前橋商工会議所連携事業としてまちなかキャンパスを開催し、地域の方々を対象に、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められています。そのようなニーズに対応するため、本学の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が無難に参加できるような講座を開講いたしました。

### 2 論語の学堂 講座開催

本事業は本学の歴史及び建学の精神に基づき、平成24年3月から開始した事業である。本学の淵源は宝徳元年(1949)に遠祖長尾昌賢が学問所を開設したのに始まり、世世漢学の教授を以て地域教育に貢献しています。

古来、漢学と呼び習わされている学問の中心にあるのが四書・五経と総称される中国の古典であり、就中日本では古代より論語が重んじられてきました。そして本学は論語の「仁」を建学の精神とし、学生へ全人教育を行っています。福祉は特に人と人との関係構築が重視される分野であり、人間関係を築く上で最も大事なのが他者を己の如く感じる心、要するにそれが「仁」である。福祉と論語は決して無関係ではありません。この論語の精神、つまり「仁」を広く社会に還元するために、万を期して本年(平成25年)より通年講座として開始いたしました。

### 3 特別講演会 ～ GOMA 氏による「今の自分ができること～受け入れる勇気と感謝することで見えてきた

新たな世界～」

平成29年11月11日土曜日、お天気も雨から晴れ間が現れて回復し、学園祭日和となりました。午後の特別講演として、最近テレビや音楽関係者及び抽象画の業界で話題の「GOMA 氏」に来ていただきました。県外から100名近くの申し込み者を含めて405名の方々が来場されました。



### 4 公開講座 29年10月～11月予定

本講座は、本学における教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の福祉と医療の向上に資することを目的に実施いたします。25年度も大学院の社会福祉学研究科、大学の社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部、短期大学部の介護福祉学科等の教員が講師として、講座を開講いたしました。



## 5 公開授業 7月 実施

学校法人昌賢学園（以下本学）で学んでいる学生たちは、それぞれの夢や目標に向かい、希望実現のために勉学に勤しんでおります。

そこで学生たちがどのような学習を行っているか実際の授業の参観と、さらには保護者の方に授業を体験していただき実体験を通じて本学の教育の実際をご理解いただく場とするとともに、本学の教育に対する希望などを拝聴する機会とし、本学の教育内容の充実・強化の一助にすることを目的として開催しました。

## 6 高大連携事業 単位認定授業開講 8月

群馬医療福祉大学は、「地域に開かれた大学」を目指しており、その取り組みの一つとして地域の高等学校のとの連携を進めております。

高校時代に本学が実施する高大連携授業科目を履修することにより、社会福祉に関する内容を理解することができ、進路の選択に役立つこと、及び高校生活の充実、学習意欲の一層の向上に寄与することを目的として実施いたしました。

なお、この高大連携授業により習得した単位は、本学に入学した場合は本学で修得した単位として認定しております。



## 7 東公民館家庭教育学級連携事業 もっと！すくすくおやこスクール

子育てについてのコツや困ったときの対処法について学ぶとともに、日ごろ思っていること悩んでいることなどについて情報交換し、親子ともに楽しく健やかな毎日を応援します！みんなで一緒に楽しく子育てしませんか？ 群馬医療福祉大学の先生方が講師として色々なことを実践しました。

期間 平成 29 年 12 月～1 月  
時間 10 時～12 時  
会場 前橋市 東公民館  
参加者 未就園児をもつ保護者とその子



## 8 東公民館 高齢者教室 参加者

高齢者と地域のふれあいの輪を結び、お互い学びあうとともに、こころ豊かな生活（健康・仲間づくり等）づくりを目的に地区内在住の概ね60歳以上の方を対象に実施。健康増進と地区の交流や東地区老人クラブ連合会の事業（学習活動）として位置づけられています。本学介護福祉学科の教員が講師として講座を担当いたしました。

8月30日(火) 13:00～15:15

○講演

「日常生活でできる生活術～血圧管理のコツ～」

講師 群馬医療福祉大学短期大学部 助教 松崎圭子



9月9日(金) 13:30～15:30

○「認知症にならないための予防策」

講師 介護福祉学科 助教 清水久二雄



## 9 自治体や団体との連携と人的資源(マンパワー)の提供

本学はボランティアや環境美化活動を通じた教育を重視し、学生の主体性を重視した教育を実践しています。特にボランティア活動は単位化し必修科目としています。以下のとおり26年度の地域貢献を行いました。

### ・地域貢献活動への取組

- 前橋市 前橋まつり、前橋七夕まつり、前橋シティマラソン  
前橋あそか会 あそかまつり、やる気の木プロジェクト学生派遣  
前橋ヒルクライム、赤城大沼マラソン
- 藤岡市 藤岡市民活動フェスティバス、藤岡子どもフェスティバス  
藤岡市民討議会、藤岡まつり、藤岡フェスタ  
藤岡健康福祉祭、産学官連携藤岡まちづくりシンポジウム
- 群馬県 群馬県障害者スポーツ大会、リレーフォーライフジャパン、  
おくたの元気隊、みやま養護学校



## 10. 神流町 おくたの元気隊

### おくたのげんき隊活動報告会

中山間地域と学生との交流事業である「おくたのげんき隊」の活動について看護学部の学生20名が参加している。過疎化と高齢化が深刻な奥多野地域に、世代間交流を生み出すことを目的とし、学生たちは1年間、高齢者サロンや地域の行事に参加している。





## 12. 世界遺産 高山社での活動

本学が目指す地域密着型の実学教育として、地域と大学が協働して、地域の特性を活かしたまちづくり、コミュニティづくり、地域活性化を目指しております。

この度、本学が所在する藤岡市は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産のひとつである高山社跡が世界遺産に登録されました。本学ではこの世界遺産・高山社において藤岡市と連携し高山社跡において、本学学部の特徴を活かした活動を展開し藤岡市の発展、地域活性化に寄与して参ります。

学生は事前に高山者跡に関する基礎知識を学び、学生案内人として見学者をお出迎えしたり、駐車場のごみ払い等の活動をしたりしています。さらに看護学部生は学びの特色を活かし、健康チェック・血圧測定を行い、参加者の健康を気遣いながら交流を図りました。

## 13. 海外研修報告

研修期間 2017.9.3 ～ 2017.9.10

参加学生26名 引率2名

訪問先 フィリピン マニラ



グローバル人材育成推進事業の一環として、フィリピン海外研修プログラムを2017年9月3日～9月10日までの8日間にわたり実施してきました。参加した学生は、看護学科14名、社会福祉専攻4名、子ども専攻5名、理学療法専攻3名の計26名です。

現地では提携大学の学生や施設に入所中の子どもたちとの交流を通じて、短い時間でしたが異国の文化や生活に触れることができ、楽しくかつ有意義な経験となりました。医療施設の視察では、貧困層の人たちが無料で受診できる病院や産院、精神科国立センター、さらに、富裕層向けの高度な設備が整った私立病院等を見学し、フィリピンの医療事情を知ることができました。また、路上で生活する子どもたちや劣悪な住宅事情を目の当たりにし、生活環境、労働、教育等について考えるきっかけにもなりました。このような経験が学生達にとって、今後の学生生活、社会生活を考える上で、貴重な素材を与えてくれるものと確信しています。

## 北京社会管理職業学院との協定締結

### 概要

1959年に成立。2007年以降は民政部党委員の適切な指導及び北京政府と教育部の管轄の下、民政部管理幹部学院に基づいて、北京社会管理職業学院が運営される。

その他、民政部管理幹部学院、民政部トレーニングセンター、民政部専門技能鑑定指導センター、民政部社会仕事研究センターと中国社会仕事学会を設置している。

2018年度には4年制大学が設置され、留学コース(医療福祉)が新設。

### 学科構成

看護(全科看護)、老人サービスと管理、リハビリ治療技術、義肢装具、救急救命、(コミュニティ・ボランティア)、幼児教育(0-3歳早期教育、幼児教育、特別支援教育)、不動産管理、冠婚葬祭、環境園芸、など

17の学科がある。

### 教職員・学生数等

教職員 292名

学部学生 3970名

### 協定内容

教職員の交流、学生の交流、共同研究及び情報交換を通して、両国の文化及び科学の進歩及び友好関係の強化に寄与することを目的とし、教職員及び学生の交流、共同研究の実施、講演会・シンポジウムの開催及び学術情報並びに資料の交換を行うことにより、両大学の相互協力を密接にし、研究・教育を活性化させることを目指す。

1. 両大学の協定内容は以下の交流活動を含む。
  - (1) 教員及び研究者の交流
  - (2) 学生の交流
  - (3) 学術資料・情報及び出版物の交換
  - (4) 共同研究の推進と学術研究会の開催
  - (5) 両大学の協議によるその他の活動の実施(交換留学生プログラム)

上記1-(5)における学生の交流について

### 目的

この協力教育プログラムは、両校の協力のもと相互の学生を留学生として派遣し、国際的な視野を持ち、派遣先の言語および医療福祉等に精通した高度な専門職業人材を養成することを目的とする。

### 連携方式

A「3+2」方式 北京社会管理職業学院の課程3年を修了(修了見込みを含む)し、日本

での在留資格が取得可能な者は本学の社会福祉学部へ3年次編入、又は本学の短期大学部医療福祉学科へ入学することができる。この場合、本学の卒業証書を授与することとする。

**B「2+1」方式** 北京社会管理職業学院の課程2年を修了（修了見込みを含む）し、日本での在留資格が

取得可能な者は本学の各学部、又は本学の短期大学部医療福祉学科へ特別聴講生として認めることができ

る。この場合、本学の修了証明書又は履修証明プログラムを終了したものは法に基づく履修証明書(Certificate)を交付することができる。

### 群馬医療福祉大学と渋川市との連携協力に関する協定を提携

群馬医療福祉大学は、渋川市と文化、産業、学術、生涯学習 地域防災などの分野で相互に協力し、地域の発展や人材育成を推進するための連携に関する協定の調印式を、平成29年7月7日（金）に渋川市役所で行いました。

調印式では、鈴木利定学長と阿久津貞司市長が協定書に調印し、今後の連携に向けて固い握手を交わしました。

群馬医療福祉大学は、地域と共に発展する総合大学として、全学規模で渋川市との緊密な連携、協力を一層、図って参ります。

渋川市との連携・協力内容は以下の通り

- (1)渋川市が推進するプロジェクトに関すること。
- (2)教育研究、生涯学習、文化及びスポーツの振興発展に関すること。
- (3)人材育成に関すること。
- (4)地域防災及び災害発生時の相互協力に関すること。
- (5)シティプロモーション活動に関すること。
- (6)その他甲及び乙が協議して必要と認める事項に関すること。



## 群馬医療福祉大学と株式会社ジーシーシースタッフとの

### 産学連携協定を締結

群馬医療福祉大学と株式会社ジーシーシースタッフとの間で「産学連携に関する協定」を平成 30 年 3 月 16 日(金)に締結しました。平成 30 年に多野神流町において活動が 5 年目を迎える「おくたのげんき隊」と 4 年目を迎える「脳若トレーニング」を組み合わせ、認知機能の維持向上を目的に産学官連携事業のモデルケースの発信、学生の経験値の増幅などの相乗効果を狙いとしています。

協定の内容は以下のとおり

群馬医療福祉大学及び株式会社ジーシーシースタッフは、地域における産学連携活動を推進するため相互に協力し、もって地域社会の発展に貢献することを目的として、本協定を締結し、本条に定める事項について、提携・協力するものとする。

- (1) 群馬県多野藤岡振興局の主催する、おくたのげんき隊派遣事業に係る学生への指導・助言
- (2) 介護予防事業に係る促進・教育
- (3) 介護予防におけるレクリエーションプログラム等の共同研究・開発
- (4) その他産学連携活動に寄与する事項の推進

### 株式会社ジーシーシースタッフ

地方自治体の身近なソリューションパートナー、情報化を推進する自治体のソリューションパートナーとしてソフトウェア、アプリ開発を中心に情報提供を行っています。

### 脳若ってなに？

『脳の若返り』だから『脳若』

2010 年から福岡県で始まった、脳の若返り教室です。

口コミで広まり、今では全国 20,000 人のシニアがその楽しさを体験しています。

### どんなトレーニングなの？

iPad を取り入れたトレーニングですが、講師が誘導役となり、講座を盛り上げます。

いきいき・ワクワクに大切な、コミュニケーションを深めるトレーニングです。

iPad も使えるようになって、仲間も増える・・・そんな教室です。



前橋市共催 健康医療講演会が行われました

前橋市 共催事業 健康長寿のまちづくり

## 100歳でも元気に活躍できるまち・まえばし 開催

7月1日(土)、前橋市との共催 健康医療講演会「健康長寿のまちづくり 100歳でも元気に活躍できるまち・まえばし」が、昌賢学園まえばしホールにて開催されました。

第一部では、恩賜財団済生会理事長の炭谷茂氏より基調講演「活力あるまちづくりを考える～明日のまえばしに向けて～」を講演いただきました。続く第二部では、オピニオンリーダーからの提言と題し、炭谷氏をはじめ、前橋市市長の山本龍氏、前橋市医師会長の田中義氏、前橋商工会議所会頭の曾我孝之氏、本学学長によるシンポジウムが行われました。

当日はお足元の悪い中、多くの市民の方にもご参加いただき、ありがとうございました。今後も医療・福祉分野において地域貢献できるよう、活動してまいります。



平成 29 年度

## 入試広報部門報告

### 平成 29 年度オープンキャンパス参加者数

	29 年度	前年対比	前年度 (28 年度)
前橋キャンパス 社会福祉学部 短期大学部	445	+11	434 名
藤岡キャンパス 看護学部	393	▲32	425 名
本町キャンパス リハビリテーション学部	301	▲11	312 名
群馬社会福祉専門学校	163	+26	127 名
合計	1,302	0	1,298 名

### 入学者状況（入学者数）

	入学定員	H30 年 4 月	前年 対比	H29 年 4 月	前年 対比	
大学院	10 名	8 名	+5	3 名	+ 2	1 名
大学 社会福祉専攻	50 名	43 名	+6	37 名	▲10	47 名
大学 編入	40 名	7 名	▲15	22 名	+13	9 名
大学 子ども専攻	40 名	32 名	+1	31 名	▲9	40 名
大学 看護学科	80 名	91 名	+1	90 名	▲1	91 名
大学 理学療法専攻	35 名	38 名	+4	34 名	▲6	40 名
大学 作業療法専攻	25 名 (35 名)	34 名		23 名	▲4	27 名
短大 医療福祉学科	80 名	59 名	+19	40 名	▲13	53 名
専門学校専門課程						
福祉保育学科	50 名	33 名	+5	28 名	▲17	45 名
介護福祉専攻科	80 名	21 名	▲18	39 名	+10	29 名
専門学校別科						
社会福祉士通信課程	200 名	65 名	▲5	70 名	+1	69 名
精神保健福祉士短期養成通信課程	80 名	22 名	+17	5 名	-	平成 29 年開講
実務者研修通学課程	250 名	18 名	▲8	26 名	▲4	30 名
実務者研修通信課程	30 名	98 名	▲75	173 名	+143	30 名
鈴蘭幼稚園	90 名			31 名	+13	18 名

## 平成 31 年度入試 群馬医療福祉大学 入試変点について 地元(群馬県)を重要視した入試改革を実施

18 歳人口の減少期のなか、どの大学も募集戦略には苦慮しています。1992 年度は約 205 万人いた 18 歳人口は、今は 117 万人にまで減少し、今後さらに 2024 年には 110 万人を切り、2031 年度にはついに 100 万人を切り 99 万人となると見込まれ、減少の一途をたどると考えられています。

本学では開学以来、徹底した少人数教育のもと、仁の精神を教育の理念とし地域に根ざし地域に貢献できる医療福祉人材の養成に努めてまいりました。一人一人の学生の個性を發揮できるよう、きめ細かな指導を行ってきました。

医療福祉分野に目を向けると、現在、群馬県においても、急速な少子高齢化の進展や医療技術の進歩により、県民の医療福祉ニーズは高度・多様化しており、医療福祉の現場では看護師や介護福祉士等の医療福祉従事者不足の問題が深刻化しています。地域の医療福祉を支える人材を養成するには地域の若者を立派な医療福祉従事者として養成し、地域に送り出すことが本学の使命だと認識しております。

上記の問題点を改善するためには、高大連携の取り組みが一層重要と考えております。高校も 16 歳人口の減少のなかで、より再編淘汰が進む環境にあります。それだけに「どのような高校生を教育し、育てるか」といったスクール・アイデンティティをより明確にしていくことが急務となってきました。そのスクール・アイデンティティと大学のアドミッションポリシーがつながってこそ、高大連携の意味があるのです。

本学では高大連携入試や地域枠推薦といった群馬県に特化した入試を 31 年度から導入いたします。入学試験は高校と大学のインターフェイスであり、その設計の仕方によっては、高等教育の充実につながります。高校生の知識の体験の拡大を促し、高等教育と大学教育をうまく接続することによって、リーダーとなるべく人材を養成することが可能となります。さらに高等学校と意見交換をしながら、群馬県で活躍できる医療福祉人材の輩出につとめていきたいと考えます。

さらに 2021 年度より「高大接続改革実行プラン」では、大学で学ぶ意欲を持つ多様な生徒を多面的・総合的な入学者選抜で受け入れ、高等学校で培った⑦基礎的な知識及び技能、⑧これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、⑨主体的に学習に取り組む態度（以下、「学力の 3 要素」）を更に育み、各学部の専門的な深い知識・技能を獲得させ、予測困難な社会で主体的に多様な人々と協力して仕事をしていける人材として社会へ輩出できる教育の確立を目指すことが明示されています。

以下の平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告にもあるような入学者選抜を実施し、学力に偏る入試ではなく、受験生の主体性、思考力、判断力等を評価する入試制度を実施いたします。

## 平成31年度 入学者選抜実施要項の変更点

自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等）、口頭試問、プレゼンテーション、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をより積極的に評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料等（※）の積極的な活用を促します。

※その他、エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション、各種大会や顕彰等の記録、総合的な学習の時間などにおける生徒の探究的な学習の成果等に関する資料やその面談など。

### I.地域枠推薦入試（群馬県優先枠）

群馬医療福祉大学では地域貢献を大学の理念とし、将来、地域の医療福祉に貢献する人材の育成を使命としています。近年、群馬県においても、急速な少子高齢化の進展や医療技術の進歩により、県民の医療福祉ニーズは高度・多様化しています。しかし、医療福祉の現場では看護師や介護福祉士等の医療福祉従事者不足の問題が深刻化しています。

[地域枠推薦入試] は、こういった地域の医療福祉ニーズに対応することを目的として、医療福祉従事者として活躍しうる能力・適性だけでなく、明日の群馬県の医療福祉を担うという強い意志を有する地元の生徒を求めするために実施されるものです。

### II.高大連携型 AO 入試

群馬医療福祉大学・短期大学部は、「地域に開かれた大学」を目指しております。その取り組みの一つとして、地域の高等学校との連携を進めております。

高等学校在校生が、本学の実施する高大連携授業科目を履修することにより、社会福祉等に関する内容を理解することができ進路の選択に役立つこと、高等学校生活の充実及び学習意欲の一層の向上に寄与することを目的としております。

なお、高大連携授業により習得した単位は、入学した場合は、本学の全学部で修得した単位として認定をします。

授業の内容は、「医療福祉教育の基礎」をテーマとし、社会福祉、教育（幼小中高特別支援）、医療、リハビリ、介護等の分野の基本的なことから関連づけて学びこれらの理解を深めるものです。

地域の高等学校と大学が連携することにより、大学での講義や実習が受講可能となることから、高等学校生の学習機会を拡大し、さらには高等学校における多様な教育課程の編成にもつながり、高等学校の教育活動充実に資することもできると考えております。

高等学校との連携と支援の充実を目指し、教育研究面で一層の地域貢献ができるように努めてまいります。

### III.自己推薦入試

本学の各学部・学科が求める優秀かつ個性的な人材に対して、入学者の多様化を図ることを目的とする。高等学校在学中の学習成績、課外活動、社会活動など、1回限りの学力試験では評価しがたい資質・能力を調査書や自己推薦書、自己PRなどで評価する。

◇就職課では学生一人ひとりの希望する先への就職または進学ができるよう、有資格者(キャリアアカウンセラー及びキャリアコンサルタント)を配置するとともに、『就職指導』を授業として開講し、きめ細かな就職支援や求人資料等、豊富にそろえ、実践的なアドバイスも交え、現場での即戦力になるためのサポートを実施しています。

地域連携センターとも連携し、本学の特色でもある『ボランティア活動』を就職活動にも存分に取り入れ、医療福祉施設等での活動に積極的に取り組むことを進めることで進路・就職に対する動機付け、または就職後のミスマッチを防いでいます。

学生のキャリアに対する意識の向上及び就職指導の一環として行う研修は、変化する社会情勢の中でも十分な就職活動が行えるようバックアップ体制を敷いており、資格取得対策に関しては学生を支援する資格取得講座を数多く開講しています。この資格取得講座の受講者、各種資格試験の合格者は年を重ねる毎に増加しており、公務員（公立保育園を含む）に現役生が合格するとともに、教員採用試験の合格者も数多く出ています。

また、同課では卒業後のキャリア支援も行っており、職場における問題、資格取得及び再就職の相談・斡旋等、生涯にわたるキャリア形成においての支援も行っています。

◇各学部学科の就職状況は以下の通りです。

- ・社会福祉学部社会福祉専攻の就職場所は、高齢者関連施設 9%、障がい者(児)施設 33%、病院 (MSW・PSW) 12%、福祉関連機関団体(社会福祉協議会)2%、児童関連施設 4%、特別支援学校教諭 9%、一般企業 11%、公務員 8%
- ・社会福祉学部こども専攻の就職場所は、保育園や幼稚園 41%、障がい者(児)施設 8%、児童関連施設 3%、高齢者関連施設 4%、小学校教諭 20%、公務員 20%、進学 5%
- ・看護学部の就職場所は、病院 89%、養護教諭 5%、保健師 3%、進学 3%
- ・リハビリテーション学部理学療法専攻の就職場所は、病院 83%、高齢者関連施設 8%、一般企業 4%、障がい者関連施設 2%
- ・リハビリテーション学部作業療法専攻の就職場所は、病院 87%、高齢者関連施設 13%
- ・短期大学部の就職場所等は、医療事務 41%、高齢者関連施設 33%、障がい者(児)施設 6%、病院(介護)6%、一般企業(福祉)2%、進学(編入学含む)12%